第 38 講
オスマン帝国・19 世紀ロシア史・東方問題

1

【第２次ウィーン包囲失敗】オスマン帝国はメフメト４世の時の (1)〔　　〕年の (2)〔　　〕に失敗し（これを機にウィーンにコーヒーハウスが登場し，トルコの旗に模してクロワッサンが焼かれるようになった)，(3)〔　　〕年の (4)〔　　〕で (5)〔　　〕と (6)〔　　〕(現ルーマニアの西半分) を失い，オスマン帝国の衰退が始まった。1700 年からの 30 年間は (7)〔　　〕時代と呼ばれフランス趣味が開花した。1774 年の (8)〔　　〕条約や 1792 年のヤッシー条約で黒海北岸 (9)〔　　〕や，(10)〔　　〕付近をロシアの (11)〔　　〕により喪失（そうしつ）（この時期カリフ権を主張しはじめる）した。フランス革命の 1789 年に改革を企てたスルタンは (12)〔　　〕だ。1807 年にイェニチェリを廃して西洋式の軍制であるニザーム＝ジェディットを創設しようとしたため廃されイェニチェリにより殺害された。

イスラーム世界の中枢をオスマントルコ帝国が牛耳（ぎゅうじ）ることへの反発から，(13)〔　　〕中央部でアラブ＝イスラームへの回帰をめざす (14)〔　　〕運動が起こり，第１次 (15)〔　　〕ができるが，オスマン帝国のアルバニア人エジプト太守（たいしゅ） (16)〔　　〕(**エジプトに綿花（めんか）を導入**した有能な人物）が討伐した。

【ギリシア独立戦争】オスマン帝国のエジプト太守ムハンマド＝アリーの任務は (17)〔　　〕だった。ウィーン体制の原理原則は独立など厳禁のはずだが，イギリスの (18)〔　　〕の詩人 (19)〔　　〕の訴えと義勇兵（ぎゆうへい）への参加や，フランスのロマン派の画家 (20)〔　　〕の絵画「(21)〔　　〕」による訴えにより，ギリシア助けるべしの声が上がる。ロシアも (22)〔　　〕両海峡から (23)〔　　〕海へのルートをオスマン帝国に承認させるチャンスとばかりにギリシアを支援（(24)〔　　〕世)。1827 年の (25)〔　　〕の海戦でオスマン帝国は敗北，1829 年の (26)〔　　〕で独立を承認，(27)〔　　〕年のロンドン会議で国際的に承認され，バイエルン公が国王になった。ロシアの南下政策は成功した（(28)〔　　〕世)。

解答

（１）1683　（２）第２次ウィーン包囲　（３）1699　（４）カルロヴィッツ条約
（５）ハンガリー　（６）トランシルバニア　（７）チューリップ　（８）クチュクカイナルジ
（９）クリミヤ半島　(10) ドニエプル川　(11) エカチェリーナ２世　(12) セリム３世
(13) アラビア半島　(14) ワッハーブ　(15) ワッハーブ王国　(16) ムハンマド＝アリー
(17) ギリシアの独立阻止（そし）　(18) ロマン派　(19) バイロン　(20) ドラクロワ
(21) キオス（シオ）の虐殺　(22) ボスフォラス＝ダーダネルス　(23) エーゲ
(24) アレクサンドル１　(25) ナヴァリノ　(26) アドリアノープル条約　(27) 1830
(28) ニコライ１

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【東方問題】(29)〔　　〕はギリシア独立戦争の見返りに(30)〔　　〕を息子に占領させた。(31)〔　　〕(1831 ～(32)〔　　〕年）になる。ロシアは両海峡を通らしてもらっているのでオスマン帝国を支持，(33)〔　　〕で両海峡の独占航行権を得る。南下政策大成功！

調子に乗ったムハンマド＝アリーは次にエジプト(34)〔　　〕を要求，第２次エジプト＝トルコ戦争（1839 ～(35)〔　　〕年）になる。ムハンマド＝アリーの野心はフランスがエジプトを支持し成就するかにみえたが，イギリスの(36)〔　　〕の巧みな外交で(37)〔　　〕となり(38)〔　　〕条約で，ウンキャル＝スケレッシ条約は破棄されロシアの南下政策は挫折，ムハンマド＝アリーのエジプト太守世襲は認められたがシリアからは撤退(てったい)することになる。

つまり**イギリスのインド＝ルートは瀕死(ひんし)のオスマン＝トルコを延命させ，ロシアとムハンマド＝アリーの影響力を減退させることにより確保された**ということだ。

この一連の出来事を(39)〔　　〕という。パーマストンは同時期(40)〔　　〕（1840 ～ 1842 年）を起こしている。

【クリミヤ戦争】(41)〔　　〕(1853 ～(42)〔　　〕年）はオスマン帝国内のキリスト教の(43)〔　　〕(正確にはキリスト誕生の地ベツレヘム教会の鍵）の(44)〔　　〕をカトリックの世俗代表(45)〔　　〕と(46)〔　　〕が争い始まった戦争だ。パン＝スラヴ主義に抗するパン＝ゲルマン主義の盟主オーストリア，ロシアの南下政策を警戒するイギリス，ナポレオン３世に恩を売りたい(47)〔　　〕王国，クリミヤ半島をロシアから奪還したいオスマン＝トルコがフランスを支持した。戦場看護に(48)〔　　〕が活躍した(49)〔　　〕の戦いでロシアは敗れ(50)〔　　〕年の(51)〔　　〕でオスマン帝国の領土は保全となる。(52)〔　　〕の自治が事実上認められた。両海峡は閉鎖され**ロシアの南下政策は再度挫折**した。

解答

（29）ムハンマド＝アリー　（30）シリア　（31）第１次エジプト＝トルコ戦争
（32）1833　（33）ウンキャル＝スケレッシ条約　（34）太守世襲権　（35）1840
（36）パーマストン　（37）ロンドン会議　（38）五国海峡　（39）東方問題
（40）アヘン戦争　（41）クリミア戦争　（42）1856　（43）聖地イェルサレム
（44）管理権　（45）ナポレオン３世　（46）ニコライ１世　（47）サルデーニャ
（48）ナイチンゲール　（49）セヴァストーポリ要塞　（50）1856　（51）パリ条約
（52）ルーマニア

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【タンジマートとミドハト憲法】オスマン帝国も近代化を試みるが破綻する。1826 年には (53)〔　　〕を全廃し西欧的軍隊に再編成した。しかし 1838 年にカピチュレーションの延長として (54)〔　　〕に市場を開放し経済は破綻。翌 1839 年に (55)〔　　〕が (56)〔　　〕により (57)〔　　〕（恩恵改革）を断行するが 1875 年には経済が完全破綻した。(58)〔　　〕は (59)〔　　〕年にはアジア最初の憲法である (60)〔　　〕（ミドハト＝パシャによる）制定するが，翌年 (61)〔　　〕戦争が勃発し憲法を停止した。

【ロシア＝トルコ（露土）戦争】なんとか南下したい両海峡を通りたいロシアは最後の手段にでる。ツァーリつまりギリシア正教徒の保護者（ボスニア＝ヘルツェゴビナでの正教徒の運動をオスマン帝国が踏み潰（つぶ）した事件が背景にある）とパン＝スラヴ主義の盟主というカードを二枚同時に切って (62)〔　　〕年トルコに戦争を仕掛けた。

ロシアが勝利し (63)〔　　〕年の (64)〔　　〕で，(65)〔　　〕・(66)〔　　〕・(67)〔　　〕のオスマン帝国からの独立が決定。(68)〔　　〕はオスマン帝国領のブルガリア人の自治国となり (69)〔　　〕の保護国となったのでロシアはエーゲ海に直接出口を得た。ロシアの南下政策は大成功，上機嫌！

しかしロシアの上機嫌はイギリスの不機嫌。(70)〔　　〕首相が猛反発。英露戦争の危機！これを調停したのが誠実なる仲介人 (71)〔　　〕・ドイツ首相だ。ビスマルクとしては 1871 年にようやくドイツを統一したのにここでヨーロッパに戦争が起きたらドイツが分裂してしまう。

解答

（53）イェニチェリ　（54）イギリス　（55）アブデュルメジド１世　（56）ギュルハネ勅令
（57）タンジマート　（58）アブデュルハミト２世　（59）1876　（60）ミドハト憲法
（61）ロシア＝トルコ（露土）　（62）1877　（63）1878　（64）サン＝ステファノ条約
（65）セルビア　（66）モンテネグロ　（67）ルーマニア　（68）ブルガリア　（69）ロシア
（70）ディズレイリ　（71）ビスマルク

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【(1)〔　　〕年 (2)〔　　〕会議・条約】

①(3)〔　　〕・(4)〔　　〕・(5)〔　　〕の独立承認

②(6)〔　　〕は縮小し**ロシアの保護権は削除（ロシアの南下政策は結局失敗）**

③イギリスは (7)〔　　〕島獲得（オスマン帝国から）

④フランスは (8)〔　　〕の優先権獲得（**フランスの目をアルザス＝ロレーヌからそむける**ためのビスマルクの計略）

⑤(9)〔　　〕は (10)〔　　〕獲得（**これが 1914 年のサライェヴォ事件につながっていく**）

(11)〔　　〕年フランスは (12)〔　　〕を (13)〔　　〕年イギリスは (14)〔　　〕を事実上保護化する。

【(15)〔　　〕年青年トルコ革命】1889 年フランス革命 100 年目の年，パリ留学のトルコ人の秘密結社として始まった (16)〔　　〕（統一と進歩委員会）は (17)〔　　〕憲法復活を要求した。1908 年にギリシアの (18)〔　　〕で (19)〔　　〕を指導者として始まり無血革命に成功。その結果，

①憲法が復活し議会が再開

②(20)〔　　〕世が退位

③(21)〔　　〕が独立宣言

④(22)〔　　〕が (23)〔　　〕を併合（**セルビア系住民の反発増大**）

⑤(24)〔　　〕戦争でイタリアが (25)〔　　〕を獲得し古名 (26)〔　　〕を復活

⑥(27)〔　　〕・(28)〔　　〕・(29)〔　　〕・(30)〔　　〕が (31)〔　　〕を結成。

結局，第１次 (32)〔　　〕戦争でバルカン同盟と争ったオスマン帝国が領土を失うが，(33)〔　　〕が取り過ぎたとして (34)〔　　〕同盟（＋ルーマニア・オスマン帝国）から攻められたのが第２次バルカン戦争。**ブルガリアはスラヴ諸国から離反し三国同盟側で第一次世界大戦に参戦**する。

1912 年イリリア人の国 (35)〔　　〕がオスマン帝国から独立する。

【第一次世界大戦】1914 年 (36)〔　　〕の親ドイツ政策から第一次世界大戦で同盟国側で参戦した。イギリスはこれを口実に (37)〔　　〕を正式に保護国化した。1915 年オスマン政府は東部の (38)〔　　〕大虐殺を行った。

解答

（１）1878　（２）ベルリン　（３）セルビア　（４）モンテネグロ　（５）ルーマニア
（６）ブルガリア　（７）キプロス　（８）チュニジア　（９）オーストリア
（10）ボスニア＝ヘルツェゴビナの行政権　（11）1881　（12）チュニジア　（13）1882
（14）エジプト　（15）1908　（16）青年トルコ　（17）ミドハト　（18）サロニカ
（19）エンヴェル＝パシャ　（20）アブデュルハミト２　（21）ブルガリア
（22）オーストリア　（23）ボスニア＝ヘルツェゴビナ　（24）イタリア＝トルコ
（25）トリポリ＝キレナイカ　（26）リビア　（27）セルビア　（28）モンテネグロ
（29）ブルガリア　（30）ギリシア　（31）バルカン同盟　（32）バルカン
（33）ブルガリア　（34）バルカン　（35）アルバニア　（36）エンヴェル＝パシャ
（37）エジプト　（38）アルメニア人

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【アレクサンドル１世】(1)〔　　〕年 19 世紀元年から (2)〔　　〕の乱の 1825 年まで在位したロシア皇帝。

【ニコライ１世】ギリシア独立戦争，パリ (3)〔　　〕を経てクリミヤ戦争中の 1855 年までが在位期間。

【アレクサンドル２世】(4)〔　　〕中に即位し，(5)〔　　〕年に (6)〔　　〕を出し領主制を廃し農奴に人格的自由を与えた。農地の分与は有償だった。この影響で 1863 年に (7)〔　　〕で自治権要求運動が起きたが，これを鎮圧した。この事件が (8)〔　　〕年は (9)〔　　〕((10)〔　　〕中心）成立の要因となる。

知識人を (11)〔　　〕という。彼らが展開した農民啓蒙運動か (12)〔　　〕((13)〔　　〕）をスローガンにした (14)〔　　〕運動であり農村共同体 (15)〔　　〕を基盤に活動したが，官憲への密告と弾圧，農民の無関心で挫折(ざせつ)し (16)〔　　〕（虚無主義）や (17)〔　　〕（無政府主義）に堕した。(18)〔　　〕の作品『**父と子**』に (19)〔　　〕という言葉が初めて登場する。彼らのうち人民の意志（ルソーの『社会契約論』のキーワード）派が (20)〔　　〕年にアレクサンドル２世を暗殺する。このような社会不安を背景に頻発したユダヤ人虐殺(ぎゃくさつ)を (21)〔　　〕という。同年，帝政ロシアは清朝中国と中央アジアの境をめぐり (22)〔　　〕条約を結んだ。

樺太(からふと)やサハリンはもともとは国境とは無関係の日露が共存していた地域であったが，衝突が生じ (23)〔　　〕年の (24)〔　　〕で樺太がロシア領，千島が日本領となった。

【アレクサンドル３世】ビスマルクが更迭(こうてつ)され (25)〔　　〕が破棄されると，ロシアは (26)〔　　〕に接近，(27)〔　　〕年から 1894 年にかけて (28)〔　　〕が結ばれた。(29)〔　　〕により (30)〔　　〕が敷かれ**ロシア産業革命がピーク**を迎えた。

解答

（１）1801　（２）デカブリスト　（３）七月革命　（４）クリミア戦争　（５）1861
（６）農奴解放令　（７）ポーランド　（８）1864　（９）第１インターナショナル
（10）マルクス　（11）インテリゲンツィア　（12）ヴ＝ナロード　（13）人民の中へ
（14）ナロードニキ　（15）ミール　（16）ニヒリズム　（17）アナーキズム
（18）トゥルゲーネフ　（19）ニヒリスト　（20）1881　（21）ポグロム　（22）イリ
（23）1875　（24）千島(ちしま)・樺太(からふと)交換条約　（25）再保障(さいほしょう)条約　（26）フランス　（27）1891
（28）露仏(ろふつ)同盟　（29）フランス資本　（30）シベリア鉄道

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

2

(1)〔　　〕は18世紀のスウェーデンの植物学者。動植物の分類学を創始した。(2)〔　　〕は17世紀のオランダの物理天文学者。振子時計を発明。光の波動説を説いた。土星の環を発見した。(3)〔　　〕は17～18世紀のイギリスの数学物理学者。万有引力の発見などを通じて古典力学を確立した。(4)〔　　〕は19～20世紀のイギリスの電気技師・物理学者でフレミングの法則の考察と真空管の発明で知られる。(5)〔　　〕は18世紀のフランスの化学者。燃焼理論を確立し，質量不変の法則を立てた。(6)〔　　〕は16～17世紀のイギリスの生理学者。1628年に血液の循環を立証した。(7)〔　　〕は16世紀のベルギーの解剖学者でカール5世の従者。(8)〔　　〕は19世紀のフランスの細菌学者。乳酸菌を発見し，狂犬病の予防接種に成功した。(9)〔　　〕は15～16世紀のポーランドの聖職者・天文学者。天体観測に基づき地動説を唱えた。(10)〔　　〕は16～17世紀のイタリアの科学者。望遠鏡で木星の衛星を観測し地動説を確信した。宗教裁判にかけられ地動説を撤回させられた直後に「それでも地球は動く」と述べたという。(11)〔　　〕は19世紀のオーストリアの博物学者。遺伝の諸法則を発見した。(12)〔　　〕は17世紀のイギリスの物理化学者。ボイルの法則を発見し気体力学の出発点をつくった「近代化学の父」。(13)〔　　〕は18～19世紀のイギリスの医師。種痘法を開発し予防接種という方法を始めた。(14)〔　　〕は19世紀のイギリスの博物学者。進化論を発表し『種の起源』を発行した。(15)〔　　〕は19～20世紀のドイツの細菌学者。細菌学の基礎を確立し，ツベルクリンを創製した。(16)〔　　〕は16～17世紀のドイツの天文学者。惑星運行の法則を確認し近代天文学の基礎を築いた。(17)〔　　〕は19世紀のスウェーデンの化学技術者でダイナマイトを発明した。

解答

（1）リンネ　（2）ホイヘンス　（3）ニュートン　（4）フレミング　（5）ラヴォワジェ
（6）ハーヴェー　（7）ヴェサリウス　（8）パストゥール　（9）コペルニクス
（10）ガリレイ　（11）メンデル　（12）ボイル　（13）ジェンナー　（14）ダーウィン
（15）コッホ　（16）ケプラー　（17）ノーベル

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第 38 講　テスト

1　古い順に並べかえた場合に３番目にくるのは。

①　ミドハト憲法制定

②　タンジマート

③　クリミア戦争

④　露土戦争

2　1878 年のベルリン会議の結果と無関係な事象は。

①　オーストリアがボスニアヘルツェゴビナの行政権獲得

②　キプロス島が英領に

③　ルーマニアが独立

④　ブルガリアが独立

3　1908 年の青年トルコ革命の影響とは言えない事象は。

①　イタリアがリビアを獲得

②　バルカン同盟が結成される

③　オーストリアがボスニアヘルツェゴビナを併合

④　イギリスがエジプトを事実上保護国化

4　第一次世界大戦中にオスマン帝国が大虐殺したのは。

①　クルド人

②　ユダヤ人

③　アルメニア人

④　アルバニア人

5　クリミヤ戦争中に即位したツァーは。

①　アレクサンドル１世

②　アレクサンドル２世

③　ニコライ１世

④　ニコライ２世

6　「ニヒリスト」という言葉が初めて登場する小説を書いたのは。

①　ドストエフスキー

②　トルストイ

③　トゥルゲーネフ

④　プーシキン

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第 38 講　テスト解答

1　①　　2　④　　3　④　　4　③　　5　②　　6　③

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。